

やすらぎだより

11
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第185号

「水の歴史」

業務執行理事 植田 誠



前触れなくかかってきたスタッフさんからの一本の内線は、閉ざされていた記憶から大切なことを蘇らせた。

「施設長、お二人のご利用者様がお呼びです。良ければ今から3階フロアにお越し下さい」

久方ぶりのご利用者さんからの呼び出しに、理由を尋ねず向かった階段を上る足は重く、謝意ではなく当然謝罪が脳裏に浮かんだ。

リビングで佇まれる大勢の方々の中、私に向かって微笑まれるその表情からか、お待ちの方は瞬時に探し出せた。お一方は以前から存じ上げてはいたが、お隣の方は短期のご利用なのか初見だった。察したスタッフさんが間髪入れず私に所縁（ゆかり）を伝えてくれると、ゆうに卒寿は超えておられそうなご年齢にもかかわらず、かくしゃくとしたお声で「亡き主人から聞いておりました。ご挨拶出来て良かったです」と。

開園前の昭和49年、創始者である父は水で困っていた。飲み水とそして汚水とで。とりわけ汚水の問題には時間がかかった。その対応計画を危惧され設立に反対された方々に対して、同意へと導く大きなご尽力を下された方の存在とその想いは、父から幾度となく聞かされてはきたが、記憶から薄らごうとしていた。

今、眼前のお方のご主人がその方であったと驚嘆すると共に、流れる年月に思いをはせながらも、薄らぐ記憶と浅はかな想いの私に喝を入れていただいたと、胸中で謝辞を申し上げた。

又、上水道が完備されていなかったこの地への安定した飲み水の供給方法は、掘り抜き井戸（ボーリング水）であった。しかし、当時の技術では安定した水脈をあてることは至難の業であったらしい。そんな中、人の知恵と汗とともに、最後は‘神頼み’にて解決へと導かれた苦難の足跡を、我々は忘れてはならない。

水に関わる二つの事実が法人の理念と結び付き、深き元一日としてこれからも語り継がれるであろう。お二方の笑顔は、46年という歴史への感謝とこの先の未来をご期待していただいているようだった。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業
- グループホームなごみ筒井